

インフラメンテナンス九州フォーラム2026

第3部 パネルディスカッション

『人の繋がりで動き出すインフラマネジメント
～現場が語るわがまちの知恵と工夫～』

2026年10月6日（火）15:55～17:25 福岡国際会議場

ファシリテーター 福島 邦治（株式会社日本ピーエス スマートインフラサービス推進室長）

これまでの3年間と、今年のテーマ

九州フォーラム パネルディスカッション 今年で4回目

2023

維持管理の未来像と自治体の悩み
～包括的民間委託と新技術～

何をするか | 官民連携

- ・立場を超えた連携と挑戦
- ・官民連携の事例を増やし、横に広げる

2024

どうする？群マネ
～初めての取組を模索する中での光～

どう束ねるか | 群マネ

- ・市区町村長会議と初の合同開催
- ・束になる大切さ
- ・小さく生み出し、大きく育てる
- ・走りながら考える

2025

連携と実行
～群マネに挑む挑戦者たち～

誰と実行するか | 垂直・水平・人の群マネ

- ・県と市町、自治体どうし、人と人の連携
- ・「さあ、実行しましょう！」

2026

人の繋がりで動き出す
インフラマネジメント

～現場が語る わがまちの知恵と工夫～

- ・動き出した8団体に、今日伺います

昨年（2025年）、会場みなさんに伺いました。「群マネのステップのうち、どこが一番難しいですか？」

※当時の手引き（案）は、STEP1～STEP6の章構成でした

STEP1 キックオフ
40名

STEP4 予算要求・発注手続き
約20名

STEP5・6 事業実施・評価
0名

手法も、必要性も分かった。では、最初の一步を、誰と、どうやって踏み出したのか。

本日の流れ

第3部 パネルディスカッション 90分

オープニング

15:55～15:59

趣旨説明とパネリストのご紹介

Phase-1

15:59～16:25

我が町の知恵と工夫／人と人の繋がり方

Phase-2

16:25～16:42

最初の一步を、誰と踏み出したか

Phase-3

16:42～16:52

群マネの手引きと、会場のみなさんへの問いかけ

Phase-4

16:52～17:18

連携のあり方と、行動への結び付け方

クロージング

17:18～17:25

まとめと、参加者のみなさんへのお土産

クイズ

第3部の準備にあたり、ファシリテーターは、本日まで登壇の
8名が所属する団体のうち、いくつかの団体からお話を伺ったでしょうか？

1 4団体

2 6団体

3 8団体

挙手でお答えください

正解は③、8団体すべて。

7月29日から8月31日まで、九州・山口の各地と霞が関に、7日かけて伺いました。

**本日ディスカッションする内容は、
みなさまにお会いして直接お伺いしたお話が元になっています**

山口県・周南市（7/29）、高森町・南阿蘇村（8/7）、築上町（8/20）、国土交通省（8/21）、延岡市（8/24）、日向市（8/25）、長崎市（8/31）

本日は、より活発な議論となるよう、役職ではなく「さん」と呼びます。

登壇者のご紹介 ①

第3部から登壇（植野さんは第1部から） / Phase-1でお話を伺います

吉村さん

山口県土木建築部道路整備課 主査

県と市町が連携する道路維持管理の群マネ

米良さん

日向市上下水道局 水道課 主任技師

自主研修グループ「ひむかどぼくらぼ」代表

土井谷さん

高森町建設課 課長

町道200路線を189路線へ 道路網再編計画

植野さん

インフラメンテナンス国民会議 副会長

インフラマネジメントにおける人のつながり

登壇者のご紹介 ②

第2部で事例をご紹介の4団体から / Phase-2から加わっていただきます

兼森さん

延岡市土木課 専門員

下舞野2号橋の集約・撤去と迂回路整備

古市さん

築上町 町長

包括業務委託を活用した道路維持

太田さん

南阿蘇村 村長

職員直営と新技術の活用、37行政区への土木費補助

柴原さん

長崎市中央総合事務所 理事

新技術を活用した除草の取組

Phase-1

15:59～16:25 我が町の知恵と工夫／人と人の繋がり方

オープニング	15:55～15:59	趣旨説明とパネリストのご紹介
Phase-1	15:59～16:25	我が町の知恵と工夫／人と人の繋がり方
Phase-2	16:25～16:42	最初の一步を、誰と踏み出したか
Phase-3	16:42～16:52	群マネの手引きと、会場のみなさんへの問いかけ
Phase-4	16:52～17:18	連携のあり方と、行動への結び付け方
クロージング	17:18～17:25	まとめと、参加者のみなさんへのお土産

Phase-1 我が町の知恵と工夫

4名の方に、順にお話しいただきます



それぞれの取り組みの概要をお話しいただきます。詳しい経緯は、後半で深掘りします。

山口県 土木建築部道路整備課 主査

吉村さん

県と市町が連携する道路維持管理の群マネ

7分

【注釈】

山口県内には区と村が無いので、資料では「市町」と記載しています



よしむら たかし

吉村 崇

山口県 土木建築部 道路整備課
主査

第3部から登壇

経歴

山口県 周防大島町 出身 九州で学生生活を満喫した後、
2006年 山口県 入庁（道路・河川の公共事業全般を担当）

携わってこられた主な仕事

- 2015～2017 ながと ゆもと 【河川】 長門湯本温泉 観光まちづくりPJ
・公共空間の活用（オープン化）
・河川内への川床や飛び石の整備、許認可
- 2020～2023 【コンクリート】 新設コンクリート品質確保
・「山口システム」7代目担当
・目視評価法、施工状況把握チェックシート改訂
・山口システムのマンガ化
- 2024～ 現在 【道路】 橋梁メンテナンス全般（AI橋梁点検）
- 2025～ 現在 【道路】 市町と連携した道路維持管理の「群マネ」

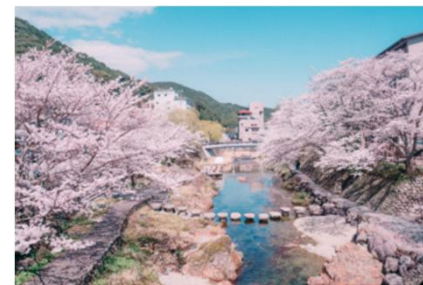
主な活動

（一社）行政エンジニア支援機構（そらふ）一般会員

ひとこと 座右の銘、大切にされていること、趣味など

様々なプロとの「協働」が大好き♪ この仕事が楽しくて仕方ないです

11 / 62



大前提：国、都道府県、市町村は「対等なパートナー」

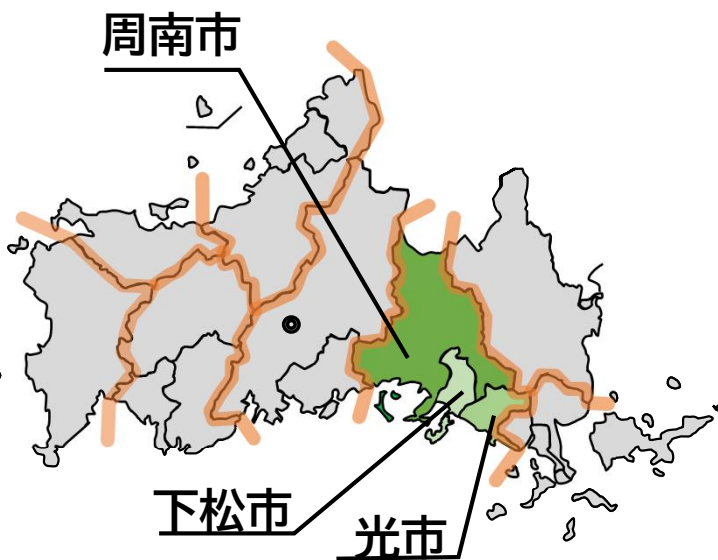
山口県 1/5



役割分担・連携して行政サービスを提供

山口県庁は、周南市の優れた取組みをマネしました。

山口県 2 / 5



周南市

① 独自システムを構築

③ どうぞどうぞ～！
一緒に使う方が楽しし♪

下松市・光市

⑤ 是非やりたい♪

山口県

② 周南市のシステム最高！
県もマネしたい…
一緒に使わせてください！！

④ ありがとう！
管内2市も一緒にどうですか？
システムは県が用意します

※ 国の「広域連携による市町村事務の
共同実施モデル構築事業」を活用

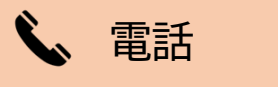
⑥ みんなでやってみましょう！
うまいけば、県全体でも♪



県と市町の共同利用システム（維持管理事務の効率化・高度化）

山口県 3 / 5

①-1 通報（道路の異状）



電話



窓口来所

①-2
職員が入力

③ 異状箇所の
修繕工事を実施

②-2 異状箇所の
修繕対応を指示



建設業者
(県発注)

④-1 対応状況を報告



下松市 発注



光市 発注

周南市 発注

維持管理事務
効率化・高度化システム



位置
情報



データ
共有



蓄積・
検索



集計・
出力

①' 各アプリ連携
(自動で反映)

②-1
修繕を指示

④-2 対応状況
を確認～完了



山口県



下松市



光市

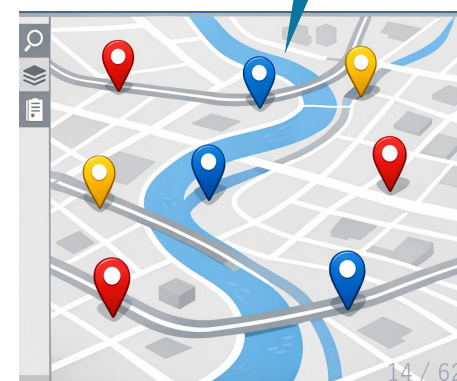


周南市

“自治体の束”

対応やコストを公開
見える化（今後実装予定）

通報日	2026年 5月 12日	
通報内容	舗装の穴ぼこ	
施設管理者	山口県 周南土木建築事務所	
対応状況	対応完了済み	
状況写真	対応前	対応後
対応完了日	2026年 5月 26日	
対応コスト	約 ● 万円	
いいね！	♡ 383	



対応の迅速化
(住民サービス向上)

山口県が実現したいこと（短期、中長期のビジョン）

山口県 4 / 5

共通システム の導入
（道具をそろえる）

指示・連絡・報告の簡素化

まずは、現場を楽しむ
（チャレンジするための余裕）

住民への「見える化」

まずは、住民に知ってもらう

仕様発注の導入

新技術や工夫の活用実現

合理化、高度化

「自治体の束」

事務の共同処理等

自治体間の役割分担（最適化）

「事業者の束」 ※ 1

一定の事業規模、体制の確保

事業収益性、マネジメント人材の確保

※ 1 地域の実情、各事業者の意見等をふまえ、
公平性に十分配慮したうえで慎重に調整を行っていく

持続可能で、効率的な
インフラマネジメントの実現

群マネのチャレンジでの変化（現在進行形）

山口県 5 / 5

県や市町の職員

- 「群マネの手引き」を読む会
- 「群マネカード」を使った議論



- 「群マネ・キックオフイベント」

- ・ 中国地整による手引き解説
- ・ 先進自治体(益田市、明和町)の講演



- 「やまぐち群マネ推進チーム(YGT)」を新設
- 県内全域(県出先機関、市町)を行脚、意見交換

山口県議会（モーメントム）

- 代表・一般質問、委員会

2025年 9月、12月、2月 2026年 6月

県議



- ・ 県と市町の広域連携を進めるべき
- ・ 県がしっかり役割を果たすべき
- ・ 周南地域以外にも広げるべき
- ・ 住民にもしっかり発信するべき

- ・ 県として、市町の意見も聞きながら
しっかり取り組んでいく

知事、部長
課長



- 静岡県における広域連携の視察（土木建築委員会）

日向市 上下水道局 水道課 主任技師

米良さん

小さな「人の繋がり」から踏み出すファーストステップ

7分



めら まさのり

米良 成功

日向市上下水道局 水道課
主任技師

第3部から登壇

経歴

宮崎県門川町出身(日向市の北隣り) 2021年 日向市役所 入庁(6年目)
法面施工技術者3年、鹿児島建設専門学校2年、建設コンサルタント9年、放送大学10年
入庁後 建設課 道路保全係4年(受注者から発注者へ)、2025年から水道課(2年目)

携わってきた主な仕事

2007～2011 北は羅臼(北海道)、南は口永良部島(鹿児島県)等の全国各地(出張)で落石防護網工の施工
2012～2020 県及び県内市町村の橋梁点検業務、橋梁補修設計業務等を担当
2020年(令和2年度)には、橋梁点検(地域一括発注)の県北ブロックの診断者・WG委員
2021～2024 東郷橋補修設計・補修工事(橋長202m)／補修設計業務、塗替え塗装工、橋面防水工等の管理
平岩跨線橋 集約・撤去(橋長17m)／住民との合意形成、撤去工法検討等
橋梁点検(地域一括発注)／これまで受注者として携わり、発注者として担当
2025～ 水道管の配管設計・施工管理・維持管理(異動してからコンクリートと絡まず・・・)
「やりたいこと(インフラメンテナンス)をやりたい」と考え、自主研修グループ設立、他団体で自己研鑽に励む。

主な活動

自主研修グループ 日向市土木技術研究会(ひむかどぼくらぼ)代表／(一社)日本コンクリート診断士会／宮崎県コンクリート診断士会／(一社)行政エンジニア支援機構(そらゑ)／TEC-FORCE予備隊員／
コンクリート診断士／コンクリート構造診断士／構造物の補修・補強技士／RCCM(鋼構造及びコンクリート)／1級土木施工管理技士／コンクリート技士／測量士／道路橋点検士／河川点検士 等

大切にしていること

悩んだ時は、「迷ったらやる(実行する)」、「なんとかなる」と前向きに考えること。

小さな「人の繋がり」から踏み出すファーストステップ

～自主研修グループ 日向市土木技術研究会「ひむかどぼくらぼ」の挑戦～

インフラメンテナンス九州フォーラム2026 第3部パネルディスカッション

日向市自主研修グループ 日向市土木技術研究会「ひむかどぼくらぼ」

代表 米良 成功

① 自主研修グループの概要

市独自の支援制度を活用し、令和7年度から若手土木技術職員17名で有志の「ひむかどぼくらぼ」を発足

◆ 日向市独自の「自主研修グループ支援制度」を最大活用

- ・ 職員の自発的な学びを市が公式にバックアップ。
- ・ 職員が自発的に行う能力向上や課題解決への研修を後押しする公式制度
- ・ 若手職員が「学びたい」と思った時、部署や所属の壁を越えていつでも実践へと移せる「確かな土台」を構築。



◆ 「日向市土木技術研究会（ひむかどぼくらぼ）」

- ・ 令和7年9月に発足。20代～30代の若手・中堅の土木技術職員17名が参画。令和8年は19名で活動中
- ・ 月1回のプライベート時間を用いて、自主的な勉強会を継続開催。
- ・ メンバー間の技術研鑽と役所の縦割り・垣根を越えた連携強化が目的。



勉強会の様子（市長参加）

2027.02

② 自主研修グループを始めた目的

技術者不足に危機感を持ち、孤立した「孤島の住人」から脱却するための熱意が原点

《 小規模自治体を取り巻く「孤独な」現実 》

【技術職員の深刻な不足】 少数の土木技術職員で膨大なインフラを管理せねばならず、日々の通常業務と災害対応に忙殺される日々。

【技術伝承・蓄積の途絶】 職場に相談できる先輩や経験豊かな技術者がおらず、個々のノウハウが蓄積・伝承されない。

【自己研鑽の限界】 予算や時間にゆとりがなく、先端技術や資格取得に向けた勉強会を自力で開催する機会を持ってない。

《 事実上、「孤島の住人」と化す職員 》

組織の縦割りや人員の不足により、技術職員一人一人が周囲と繋がれず孤立している現状。

解決の糸口：「人の群マネ」

【能動的なスキルアップ】 組織の指示を待つのではなく、自らの「学びたい」という熱意で技術力向上を図る。

【所属の枠を越えた信頼】 課や部署の縦割りを完全に排し、いざという時に本音で相談し合える強固な「顔の見える関係」を築く。

【群マネの種まき】 個人間の信頼関係構築とノウハウの共有を、将来的な「群マネ」等の実現に繋げる。

☞ 他自治体等との連携より、まずは「内部（市）の連携強化」

☞ 「グループ」とした枠組みがあれば若手も相談しやすい環境を構築できる。

☞ これまでの職員間の関係性の再構築（部署の垣根を超えた連携）



③ 活動実績：保育所点検

築52年の保育所点検と園児向け「建物点検チャレンジ」で技術研鑽と地域貢献を両立

《 門川町・平城保育所ボランティア点検 》

■ ボランティア点検の実践

近隣の門川町にて、築52年が経過した平城保育所の安全点検を実践。有志だからこそできるスピーディーな貢献。

若手メンバーに対して、コンクリート構造物の診断技術のスキルアップ・技術継承（人材育成）を実施。

■ 子供たちとの建物点検チャレンジ

園児22名を「建物のドクター」に見立てて打音検査を楽しく体験してもらうイベントを併催。ゾウさんの手作り紙芝居などで土木の役割（インフラメンテナンス）を普及。（公社）日本コンクリート工学会の子供向け絵本「教えて！コンクリートブック」を園児に配布。

■ 産官学民の『人の繋がり』

宮崎県コンクリート診断士会会員の繋がりを活用し、民間企業（(同)CONSTA）が無償でドローンや電磁波レーダーを貸与、所属を超えた「人の群マネ」の具現化。



「タ刊デイリー新聞」(R8.4.6付)に掲載された記事

④ 活動実績：外部講師による講演会

実務技術を超えて、若手技術者としての「志」と「誇り」を育む場の創出

《講演会による誇りと意識の醸成》

■ 目的

日々の多忙な業務に追われる中で、若手職員が「土木技術が持つ本来の力と可能性」を再認識し、将来に向けて自発的に歩み出すための強い活力を得る。若手の士気を爆発させたい。

■ 講師招聘

令和8年2月、外部講師として、私（米良）や若手メンバー数名が正会員でもある「一般社団法人行政エンジニア支援機構（そら糸）」の会長・松永昭吾氏を招聘

■ 演題

『「技術は裏切らない」ー若手のための土木キャリア論ー』

■ 参加者

行政組織の垣根を越えて近隣自治体や民間企業から「約50名」が会場に集結。西村市長も同席。

■ 人の群マネの契機

情報共有を図り、若手土木職員の熱意に火をつける絶好の機会に（※本取組は「そら糸」のHPでも紹介）



講演会の様子

⑤ 活動実績：外部講師による技術研修会

官民の壁を越え、対等に学び合う強固な水平ネットワークの創出

《 堤副所長を招いた特別勉強会 》

■ 延岡河川国道事務所の堤副所長を招聘した特別技術研修会

令和8年6月、当地域を管轄する国の延岡河川国道事務所の堤副所長（技術士）を外部講師としてお招きし、日向市役所を会場に、若手技術者の資格取得意欲向上を目的とした技術研修会を企画・実施。アンケートの結果、資格取得意欲向上に成功。

■ TEC-FORCE予備隊員としての能動的な働きかけ

TEC-FORCE予備隊員であるという国との繋がりを最大限に活かし、中堅職員が直接「地域の技術力底上げのための協働」を幹部に願い出る、既存の枠に捉われない能動的なアプローチ。

■ 近隣自治体や民間技術者への呼びかけと官民41名の集結

単一市役所に留まらず、近隣市町村の職員や地元の民間若手技術者にも広く呼びかけ。官民関係なく「地域を守る土木技術者」として対等に学び合う、まさに『人の群マネ』の実践の場を日向市に創出

「個人」の連携から、持続可能な広域連携へ

この技術研修会を通じ、私たちが実践してきた個人間の繋がり（人の群マネ）が、将来の『近隣自治体との共同発注』や『広域的な点検協力』という「群マネ」を動かす上での極めて強固な土台（インフラ）になる。



🗨️ 「人の群マネ」が「群マネ」の土台に

① 個人が繋ぐ「点」

自主研修グループ活動
勉強会

② 信頼を築く「線」

保育所点検、合同研修会
個人の繋がり「人の群マネ」

③ 組織が連携する「面」

顔の見える信頼で動く
将来的な共同発注・広域連携

『人の群マネは自由』

～小さな「人の繋がり」から踏み出すファーストステップ～

高森町 建設課 課長

土井谷さん

町道200路線を189路線へ 道路網再編計画

7分



どいたに あきら

土井谷 顕

高森町役場
建設課 課長

第3部から登壇

経歴

広島県広島市出身 2013年4月 熊本県高森町役場 入庁
(建設課10年 農林政策課3年)

携わってこられた主な仕事

平成25年～令和3年(建設課)

下記事業における設計・積算・工事監督
町道維持管理
道路改良事業、橋梁補修事業
公共土木施設災害復旧事業

令和4年～令和6年(農林政策課)

下記事業における設計・積算・工事監督
林道維持管理
林道災害復旧事業、農地・農業用施設災害復旧事業
農地基盤整備事業における地元や県との調整役

座右の銘

千里の道も一歩から

インフラの大胆な管理の見直し

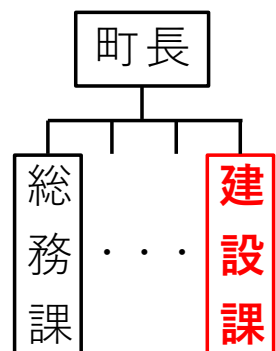
町道200路線を189路線へ
道路網再編計画

高森町 建設課 課長 土井谷 顕



1. 高森町役場の現状

組 織 図



高森町職員数
約 1 0 0 人

■建設課

- ・職員：5人（うち技術職：3人(うち国からの出向：1人)）
- ・職務：道路（町道、**林道**、**農道**）及び河川の維持管理
町道の改築
農業基盤整備（県営事業）の調整
砂防事業（国・県）及び治山事業の調整
道路・河川占用等の各種事務作業

■建設課が所管する主なインフラ施設

- ・町道：町道（192路線、総延長約242km）、橋梁（105橋）
- ・農道：農道（1路線、総延長約1km）、橋梁（0橋）
- ・林道：林道（15路線、総延長約23km）、橋梁（1橋）
- ・法定外公共物：里道、水路等
※公園、町営住宅、簡易水道の維持管理等については他課が所管

2. 高森町役場の課題

① インフラ施設の老朽化

- ・ 架橋から50年以上経過した橋梁数 2000(H12)年：3橋 ⇒ 2020(R2)年：35橋 <※32橋増加>

② インフラ施設数の増加

- ・ 町道管理延長の推移 2000(H12)年：延長約246km ⇒ 2020(R2)年：延長約267km <※約21km増加>

③ 人口の減少、少子高齢化及び税収の減少

- ・ 人口及び税収の推移
2000(H12)年：人口7,300人(うち0～14歳 1,089人)、高齢化率28.8%、標準財政規模3,071百万円
2020(R2)年：人口5,789人(うち0～14歳 628人)、高齢化率43.4%、標準財政規模2,944百万円
<※人口約1500人の減少、少子高齢化の加速、標準財政規模127百万円の減少>

※標準財政規模とは、地方公共団体の標準的な状態で通常収入される経常的一般財源の規模を示すもの

④ 職員の減少及び技術職員の減少

- ・ 職員の推移
2000(H12)年：職員数103人、技術職員数4人
2020(R2)年：職員数 98人、技術職員数3人(うち出向1人)
<※職員数5人、技術職員数1人(実質2人)の減少>

解決策

『町道の見直し』を実施

3. 高森町の町道見直し（道路網再編計画）

高森町の町道見直し(道路網再編計画)とは？

町道等は昭和時代以前に建設されたものが多く、建設当時とは町道としての使用目的や状況が異なる路線が数多く存在。

そのため、路線毎に町道としての必要性を検討し、必要性が小さい路線は**所管替え**や**廃止**を実施することで、町道を現状に合った形で整理。

	道路管理者	
	これまで	これから
所管替え※1	高森町	地元・関係者など
廃止	高森町	なし(通行止、通行不能)

※1 『町道⇒道路法の適用を受けない道路(里道、農道、林道など)』に変更

廃止等検討箇所写真



廃止等検討箇所写真



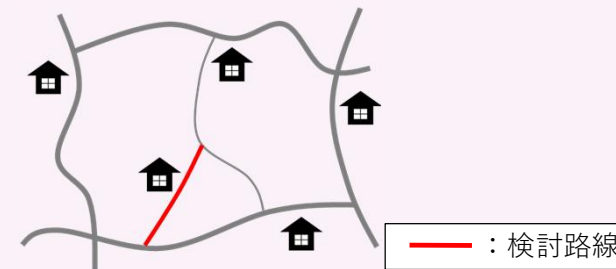
4. 道路網再編計画の検討フロー

※対象路線：200路線
実施期間：R1.9～R3.3

対象路線抽出

①

- ①沿道集落状況：人口0人・世帯数5軒以下であるかどうか
 - ②沿道家屋の有無：家屋が存在しないかどうか
 - ③車両通行の可否：車両が通行できないかどうか
- を整理。1つでも該当した場合次のステップへ（200→44路線）

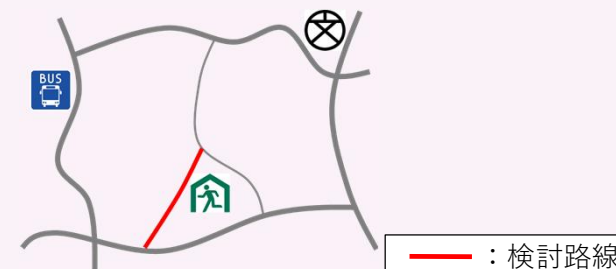


対象路線抽出

②

上記ステップで絞り込んだ路線を対象に、下記機能の観点から評価を実施し、全て非該当の路線についてカルテ作成へ（44→31路線）

- ①自動車交通機能：関連施設(町役場等)へのアクセス路かどうか
- ②防災機能：避難所・緊急避難所へのアクセス路かどうか
- ③市街地形成機能：バス路線・市町村境界路線等であるかどうか



カルテ作成

上記ステップにより絞り込んだ町道（31路線）において、位置関係や沿線の土地利用状況等を整理

交通量調査

対象町道は交通量が非常に少ないため、地元代表者へヒアリング調査を実施

見直し町道の抽出

ヒアリング調査を踏まえ、見直しする町道を抽出（31→25路線）

5. 地元との合意形成

※実施期間：R3.7～R4.3

合意形成方法

町内地区が33地区あり、地区毎に個別の地元説明会を実施すると多大な時間を要する。
そのため、毎年四半期に一度開催される、**地区代表者を集めた会議**の際に『道路網再編計画』について説明し、**地区代表者から地元住民へ説明**を実施する流れとした。

地元との合意 形成の結果

地元の反応

反対意見が出たのは33地区中2地区のみ。
反対意見が2地区に対しては、『**地元説明会の実施**』や『**対象路線における舗装補修の実施**』などの丁寧な対応を実施したことで了解を得た。

6. 道路網再編計画の結果と効果

結果

全町道 200 路線のうち 25 路線を見直し、
管理延長約 28 km、11 路線の削減を達成。

	路線数	管理延長
見直し前	200路線	約267km
見直し対象	25路線	約28km
見直し後	189路線	約239km

効果

①コスト縮減

町道の管理延長が短くなると地方交付税が減額となるが、それ以上に舗装修繕や支障木伐採等の道路維持管理に要する費用が減額となったため、町の負担が軽減し、**持続可能なインフラメンテナンスが可能**となった。

	管理延長	地方交付税額	道路維持管理費	町負担額
見直し前	267km (200路線)	145,858千円	168,522千円	22,664千円
見直し後	239km (189路線)	132,680千円	147,117千円	14,437千円
差分	▲28km (▲11路線)	▲13,178千円	▲21,405千円	▲8,227千円

※金額は1年あたりの金額

②職員の負担軽減

町道管理延長の減少により、行政相談や道路パトロール延長も減少となり、職員の負担が軽減した。

7. まとめ

町の課題

インフラ施設の老朽化・施設数の増加、
人口減少等による税収減少、職員・技術者の減少

インフラの大胆な管理の見直し

課題の共有
調整・合意形成

地元住民

庁舎内

町長

町議会

道路網再編計画

一つの『人の群マネ』

インフラメンテナンス国民会議 副会長

植野さん

インフラマネジメントにおける人のつながり

5分



うえの よしひこ

植野 芳彦

インフラメンテナンス国民会議
副会長
富山市 政策アドバイザー

第1部から登壇

経歴

1981年 株式会社巴組鐵工所 橋梁設計部
1988年 株式会社長大 応用システム部構造計画部 課長
1994年 (財)国土開発技術研究センター 研究第2部 上席主任研究員
2000年 韓国 大邱～釜山高速道路 PFI事業 マネージャー
2005年 株式会社長大 事業推進本部 エグゼクティブプロジェクトマネージャー
2006年 (財)土木研究センター 専門調査役(大水深下基礎技術懇話会事務局長)
2008年 株式会社 アイベック常務取締役(非破壊検査会社)
2014年 富山市 建設技術管理監
2017年 富山市 建設技術統括監
2020年 富山市 政策参与
2020年 植野インフラマネジメントオフィス
2023年 新技術導入に関するハンズオン支援事業検討会 委員
2023年 地域インフラ群再生戦略マネジメント実施手法検討会 委員
2025年 金沢工業大学 金沢工大附置研究所 地域防災環境科学研究所 客員教授
2026年 社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会技術部会 インフラマネジメント戦略小委員会 委員
2026年 インフラメンテナンス国民会議 副会長

現役職

- ・インフラメンテナンス国民会議 副会長
- ・富山市 政策アドバイザー
- ・植野インフラマネジメントオフィス 代表
- ・金沢工業大学 客員教授
- ・(一社)国際建造物保全技術協会 理事長
- ・(一社)木橋技術協会 会長
- ・NPO グリーンアース 理事
- ・JICA 沖縄研修所 研修講師(道路維持)
- ・地域インフラ群再生戦略マネジメント実施手法検討会 委員
- ・社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会技術部会 インフラマネジメント戦略小委員会 委員 など

インフラ経営の時代に入りました。皆様のメンターになりたいと思います。

インフラマネジメントにおける人のつながり

植野 流



ヒトをまとめただけでは、群マネは動かない

植野流

① ヒトを集める



集団はできる

しかし、方向も責任もない

② 動かす仕組みを入れる



誰が決め、誰が動かすかを明確にする

③ 動く組織になる



群マネが動く



ヒトの束



動く組織

集団をつくることと、マネジメントすることは違う。

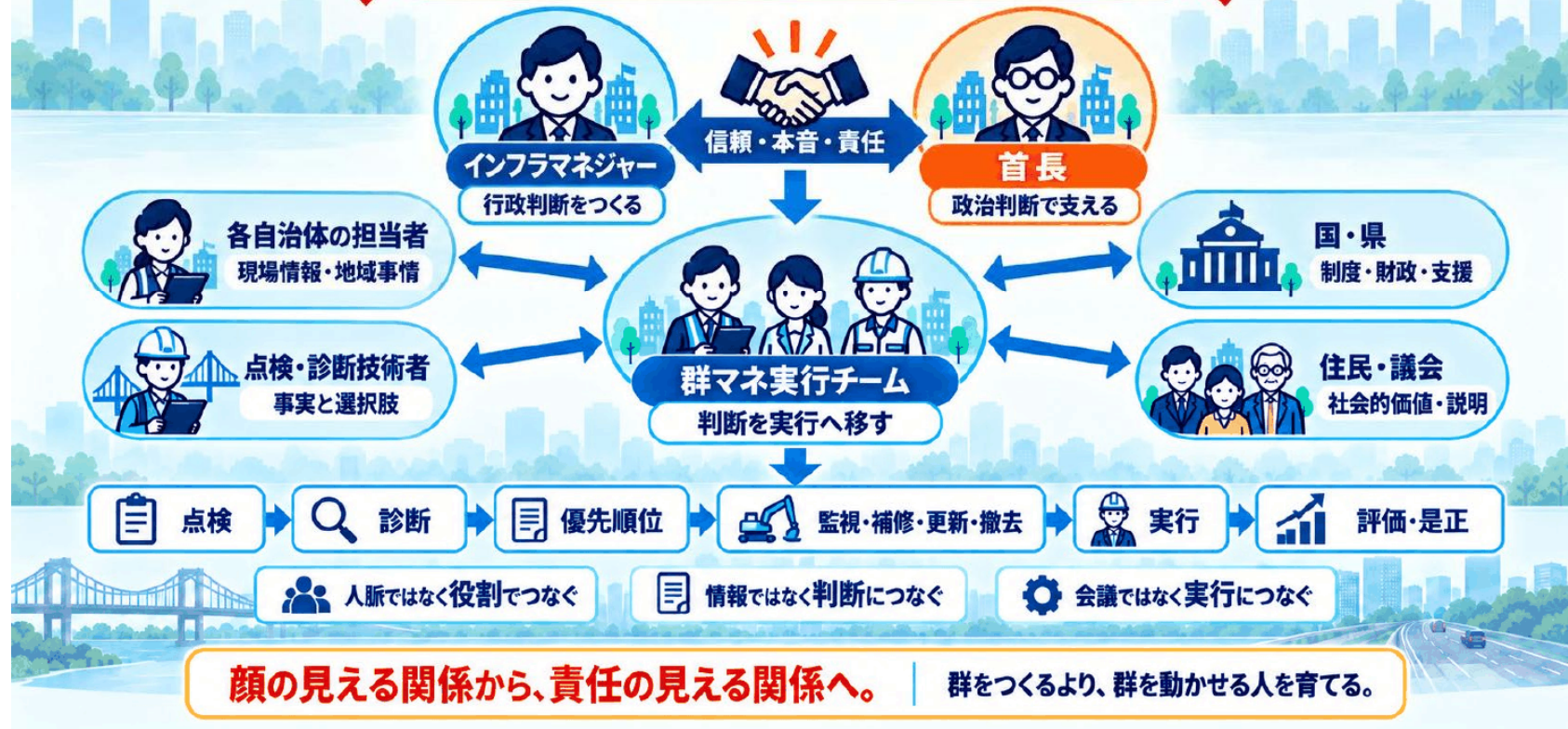
結論

人を束ねるだけでは動かない。**目的を示し、決断し、責任を負う人**がいて、初めて組織は動く。

群マネを動かす、これからの人のつながり

植野流

共通目的：地域の暮らしとインフラを持続させる



Phase-2

16:25～16:42 最初の一步を、誰と踏み出したか

オープニング	15:55～15:59	趣旨説明とパネリストのご紹介
Phase-1	15:59～16:25	我が町の知恵と工夫／人と人の繋がり方
Phase-2	16:25～16:42	最初の一步を、誰と踏み出したか
Phase-3	16:42～16:52	群マネの手引きと、会場のみなさんへの問いかけ
Phase-4	16:52～17:18	連携のあり方と、行動への結び付け方
クロージング	17:18～17:25	まとめと、参加者のみなさんへのお土産

Phase-2 進め方

お一人ずつ、ご紹介のあとに続けてご発表いただきます

1 ご紹介

いただいた資料を投影し、福島からご紹介します

お一人 30秒



2 最初の一步

どのような課題があり、誰と動かれたのか

お一人 3分30秒

兼森さん（延岡市） → 古市さん（築上町） → 太田さん（南阿蘇村） → 柴原さん（長崎市）

Phase-2

最初の一步を、 誰と踏み出しましたか。

お一人ずつ、ご紹介のあとにご発表いただきます

延岡市

兼森さん

築上町

古市さん

南阿蘇村

太田さん

長崎市

柴原さん



かねもり

ゆきこ

兼森 友紀子

延岡市役所
土木課道路維持係 専門員

第3部から登壇

経歴

延岡市出身 2008年 延岡市役所 入庁（産休育休を挟みながら18年目）
建設コンサルタント（2年7か月）横浜市役所（2年）延岡市都市計画課（11年）下水道課（3年）
土木課（4年目）（橋梁メンテナンス事業は2026年4月から）

携わってきた主な仕事

2003年～2005年 四国横断自動車道幅杭設計等（建設コンサルタント）
2006年～2008年 公共施設の修繕、設計、工事監督（横浜市役所）
2008年～2020年 延岡市景観計画策定、用途区域の変更等、公園の維持管理（延岡市都市計画課）
2020年～2023年 污水管、雨水管の新設工事、維持管理（延岡市下水道課）
2023年～2026年 道路改良工事、交差点改良工事、道路詳細設計、用地測量、用地交渉（延岡市土木課）
2026年4月～ 道路の維持管理、橋梁のPCB除去、高欄取換工事、延岡市の道路メンテナンス事業担当

主な活動

技術士（建設部門）（現在、総監受験中）、1級土木施工管理技士、下水道検定2種、コンクリート技士
宮崎県コンクリート診断士会賛助会員、R8年度InChat受講生、（一社）行政エンジニア支援機構（そら
ゑ）、
みちばた音楽隊隊長（管楽器で路上演奏する団体です）、3児の母（14歳（受験生）、11歳、9歳）

ひとこと

できることを、ひとつずつ



自分たちのできることでまちににぎわいを。
路上演奏を楽しんでいます。
#みちばた音楽隊 #michibataongakutai #結成14年目





ふるいち

あきお

古市 照雄

築上町 町長



第2部から登壇

経歴

築上町 1995年 築城町（現・築上町）役場 入庁
（生涯学習課長、産業課長を歴任。） 2026年2月に築上町長に就任。

携わってこられた主な仕事

- ・令和元年 2020東京オリンピックオリンピックパラリンピック 共生社会ホストタウン
（町職員時代）
- ・令和8年B&G財団 災害時相互応援協定締結

主な活動

- ・在日米軍再編に係る訓練移転先6基地関係自治体連絡協議会 副会長
- ・全国基地協議会 幹事
- ・福岡県農地海岸協会 会長
- ・福岡県漁港漁場協会 理事
- ・福岡県レスリング協会 理事

ひとこと 座右の銘、大切にされていること、趣味など

「できない理由」を数えるのではなく、「できる方策」を見出す。



おおた よしひろ

太田 吉浩

南阿蘇村 村長

第2部から登壇

経歴

1978年（昭和53年）生まれ 48歳 平成25年 南阿蘇村議会議員（2期） 令和3年 衆議院議員秘書、令和5年9月に第25代防衛大臣秘書を経験後、令和7年3月に南阿蘇村長に就任。現在1期目在任中。

村民との3つの約束

- 約束01 説明・結果・未来に**責任**を持ち、**誠実丁寧な政治姿勢を貫きます！**
- 約束02 村内外から広く人材を募り、**“チーム南阿蘇”**で結果を出します！
- 約束03 村民は家族。村民の不安に寄り添う**“ぬくもりと安心の行政”**を確立します！

偉大なる田舎を作る7つの政策

- 01 まずは**「稼げる村」**を目指す！ 稼いだ税源で**村民負担の軽減**を。
- 02 **国や県からは予算を、村議会とは対話を、**近隣町村や民間とは**積極連携を実行**
- 03 村づくりは、人づくりから**教育には手厚い投資を**
- 04 **攻めの観光**で、豊かさを村全体に広げたい
- 05 **村内に活気とにぎわい**を取り戻したい
- 06 農業は村の基（もとい）。**後継者育成と販売先も行政が支援**
- 07 子供からお年寄りまで、いつまでも**自分らしく元気に暮らせる村へ**

主な活動

- 1. 行財政改革と財政健全化への取り組み（ふるさと納税の倍増・組織・事業の見直し）／2. 「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の推進（ネイチャーポジティブ宣言：2026年5月、熊本県内の自治体として初めて「ネイチャーポジティブ宣言」・包括連携協定の締結：2026年9月）／3. 地域活性化と観光・トップセールス（サステナブルツーリズムの推進・企業・スポーツ大会の誘致・）／4. 住民の生活環境の整備と子育て支援（温泉・買い物環境の整備・子育て・教育環境）

ピンチはチャンス！



しばはら こういち

柴原 浩一

長崎市中央総合事務所
理事

第2部から登壇

経歴

長崎県 長崎市 出身 1996年 長崎市役所 入庁

水道部門 5 年 河川部門 9 年 道路部門 2 年 まちづくり部門10年 維持管理部門 5 年

携わってこられた主な仕事

1999～2000 未給水地区解消（送・配水管の布設）

2003～2006 大井手川改修（河道拡幅・護岸整備）

2010～2011 道路拡幅整備（市道の新設・拡幅整備）

2012～2014 まちぶらプロジェクト（まちなかの賑わい再生）

2015 唐人屋敷顕在化（江戸時代の「唐人屋敷」の歴史や魅力の顕在化）

2016～2020 都市再生・市街地再開発（官民連携による中心部の賑わい再生）

2021～ 道路・河川・公園の維持管理

ひとこと 座右の銘、大切にされていること、趣味など

みんなで協力して頑張ればなんとかなる

Phase-3

16:42～16:52 群マネの手引きと、会場のみなさんへの問いかけ

オープニング	15:55～15:59	趣旨説明とパネリストのご紹介
Phase-1	15:59～16:25	我が町の知恵と工夫／人と人の繋がり方
Phase-2	16:25～16:42	最初の一步を、誰と踏み出したか
Phase-3	16:42～16:52	群マネの手引きと、会場のみなさんへの問いかけ
Phase-4	16:52～17:18	連携のあり方と、行動への結び付け方
クロージング	17:18～17:25	まとめと、参加者のみなさんへのお土産

群マネの手引き 7つのステップ

国土交通省「地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）の手引き Ver.1」（2025年10月）



手引きの公表前の検討段階では、STEP1からSTEP6まででした。

※国土交通省「群マネの手引きVer.1」（2025年10月）を参考に加筆して作成

そのSTEP0は、この会場から生まれました。

昨年のこの場で

「STEP1～6のうち、
どこが最も難しいですか」
と会場に伺いました



結果は

最も多かったのは
STEP1
(キックオフ＝最初の一步)



そして

国土交通省 総合政策局が、
STEP1の前に
STEP0 を加えられました

会場に参加いただいたみなさんの投票（行動）が、群マネの手引きを
より良くしました。

STEP 0

準備段階

手引きには、3つのことが書かれています。

1 自分の仕事の「現実と理想」を分析してみよう

2 「悩みを共有」するために、足を運んでみよう

3 群マネ以外も含めて、「現状の打開策」を考えよう

クイズ①

本日ご登壇のみなさまの取組みの中で、群マネの手引きのSTEP0に書かれている内容のうち、最も効果があったのは？

- 1 自分の仕事の「現実と理想」を分析する
- 2 「悩みを共有」するために、足を運んでみる
- 3 群マネ以外も含めて、「現状の打開策」を考える
- 4 手引きを、じっくり読み込む

挙手でお答えください

② 「悩みを共有」するために、足を運んでみる

築上町

篠栗町へ視察に行った

山口県

周南市の仕組みを取り入れた

日向市

記事で知った取組みに刺激を受けた

長崎市

マッチングイベントで技術を知った

ちなみに④「手引きを読み込む」は、STEP0には書かれていません。

手引きには「足を運んでみよう」と書かれています。

クイズ②

では、登壇者のみなさんに伺います。

**取り組みを始めるとき、最初に声をかけた相手は
庁内の方？ 庁外の方？**

庁内（左手）

庁外（右手）

それでは、一斉に 挙手をお願いします。

庁内からも、庁外からも。

どちらから始まった一歩にも、共通していることがあります。

始まりは、制度や予算ではなく、
一人の「人」でした。

隣の職員、隣の課、隣の自治体。声をかける相手は、案外身近なところにいます。

声をかけた方と、どのようにして行動に結び付けたのでしょうか？

Phase-4

16:52～17:18 連携のあり方と、行動への結び付け方

オープニング	15:55～15:59	趣旨説明とパネリストのご紹介
Phase-1	15:59～16:25	我が町の知恵と工夫／人と人の繋がり方
Phase-2	16:25～16:42	最初の一步を、誰と踏み出したか
Phase-3	16:42～16:52	群マネの手引きと、会場のみなさんへの問いかけ
Phase-4	16:52～17:18	連携のあり方と、行動への結び付け方
クロージング	17:18～17:25	まとめと、参加者のみなさんへのお土産

ここで一度、取組みを整理します

第2部・第3部でご紹介いただいた7つの取組み ～概要と工夫～

団体（登壇者）	取組みの概要	工夫
山口県 吉村さん	県と市町が連携する道路維持管理の群マネ（周南市の仕組みを県と3市で共同利用）	県が市に「一緒に使わせてください」とお願いした、対等な連携
日向市 米良さん	自主研修グループ「ひむかどぼくらぼ」（土木技術職員19名）	部署を越えて声をかけ、国事務所との勉強会や保育所での点検体験へ
高森町 土井谷さん	道路網再編計画（町道200→189路線、約28km削減）	地区代表者の会議で説明し、反対の2地区には補修でお応え
延岡市 兼森さん	下舞野2号橋の集約・撤去と迂回路の拡幅	区長さんの要望書を元に県道路メンテナンス会議へ。現地で地元説明
築上町 古市さん	包括業務委託による道路維持（8つの課で一括委託）	篠栗町への視察から。職員と委託の役割を分け、迅速な現場対応
南阿蘇村 太田さん	職員直営と新技術の活用、37行政区への土木費補助	区長さんと計画を共有し、使われない枠を他の区へ回す
長崎市 柴原さん	新技術を活用した除草（要望537件、委託費 年間約1億円）	九州フォーラムマッチングイベントで出会った技術を、試験的に実施

取組みはそれぞれ。でも、どの一歩にも「人の繋がり」がありました。

Phase-4 連携のあり方と、行動への結び付け方

行動に結び付けるために、4つの論点について伺います

1 上下関係のない、対等な連携

県と市町が同じ目線で組むということ

2 国の機関との連携

組織で動けない場面でも、人として動けば繋がる

3 首長同士の、横の繋がり

災害のときに機能したものは、平時にも活きるか

4 走りながら考える。行動に結び付けたものは何か

結局、どうやったら行動に結びつくのか

クロージング

17:18～17:25 まとめと、参加者のみなさんへのお土産

オープニング	15:55～15:59	趣旨説明とパネリストのご紹介
Phase-1	15:59～16:25	我が町の知恵と工夫／人と人の繋がり方
Phase-2	16:25～16:42	最初の一步を、誰と踏み出したか
Phase-3	16:42～16:52	群マネの手引きと、会場のみなさんへの問いかけ
Phase-4	16:52～17:18	連携のあり方と、行動への結び付け方
クロージング	17:18～17:25	まとめと、参加者のみなさんへのお土産

今日のお土産

1

身近な人に声をかけ、仲間をつくる

日向市は部署を越えた土木技術職員に、延岡市は県と地元の6世帯に。庁内でも庁外でも、声をかけた相手が仲間になる。

2

先に動いている人に会いに行く

築上町は篠栗町へ、山口県は周南市へ、長崎市はマッチングイベントへ。一人で抱え込まずに、動いている人に会ってみる。

3

まず動き出し、変化を共有する

高森町は地元・庁舎内・町長・町議会と、南阿蘇村は区長のみなさんと。新しいやり方を実現できた喜びを、一緒に歩んだ人と分かち合う。

さあ、はじめの一步を。

第3部 パネルディスカッション END

長時間、お付き合いいただきありがとうございました